



令和4年度

多北高 FRH 通信 第16号

令和4年11月28日(月)
多北高 FRH 推進委員会
探究推進部

Exploration Day with Researchers 2 (名古屋大学との連携講座：模擬講義)

11月8日(火)の5、6時間目に、2年生を対象に上記行事が行われました。名古屋大学の学部、大学院研究科などから10名の先生方をお招きし、オンラインで模擬講義を実施していただきました。生徒は1人2回、興味ある分野の先生の講義を選んで視聴しました。先生方には自分たちの研究や夢について、生き生きと語っていただきました。生徒たちは、先生方がわかりやすく伝えてくださろうとしている大学の内容の講義を、なんとか必死に理解しようと努めました。講義の途中では、生徒同士でディスカッションする時間をとっていただいたり、生徒たちの考えを先生に伝える時間をとっていただいたり、双方向のやりとりをする工夫もしていただきました。

今回の通信では、講義の様子や参加した生徒の感想など、お伝えします。

講師の先生方の所属

No.	学部・研究科
1	文学部人文学研究科
2	経済学部経済学研究科
3	教育学部教育発達科学研究科
4	法学部法学研究科
5	情報学部自然情報学科
6	理学部遺伝子実験施設
7	工学部工学研究科
8	農学部生命農学研究科
9	環境学研究科
10	創薬科学研究科



10.創薬科学研究科の先生の講義

生徒の感想(全体)

★2つとも高校で習うこととは全然違って、とても高度な所に踏み込んで研究をしていて、とても難しいなと感じました。研究者として研究するためには基本的なことは、当たり前理解してさらに探究心を持っていることだと思ったし、自分の好きなことを周りに流されずやり続けて行くことが大切だと思いました。またそれを高校生でも分かるように説明してくださって、完璧ではないけどなんとなくは分かって、特に薬学の方はおもしろいと思ったので、薬学の道も視野に入れて進路を考えてみたいと思います。

★どちらの講座の先生からも自分の研究していること、専門分野への強い思いや熱意が伝わってきて、私もあんな風に生き生きと語れるくらいに夢中になれる学問を探してみたいなと思った。深

い知識に裏付けられている話の内容だけでなく、考えやすい例をあげることやパワーポイントの作り方、話の構成など、聞く人に理解させるための工夫がたくさん凝らされていてすごいと思った。理系だからと思って今まで本気で考えてはいなかった日本語学がやっぱり面白いなと思えたり、教育の持つ大きな可能性を感じられたりしたから、有意義な時間になったと思う。

生徒の感想（講座別）

★（3. 教育学研究科）

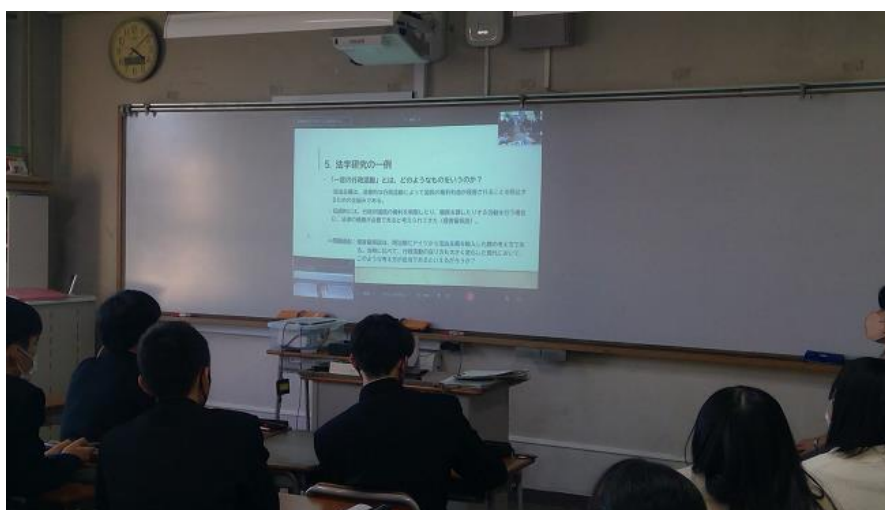
今まで漠然としか知らなかった教育学という学問について、いろいろなことを知ることができてよかった。学校教育だけじゃなく社会教育などにまでその範疇を広げると、本当に多種多様なことが教育学の中に含まれていることに驚いた。教育という、広い意味で「子どもを育てる」営みは、未来をも変えられるような大きな影響力を持った大切なものなんだと改めて思った。

★（6. 理学部遺伝子実験施設）

とても興味深い40分間となった。大学という研究機関で特定のことについて突き詰める姿勢を学べた。特に印象に残っている1番の学びとなったのは「授業で習ったことを自分の言葉で説明できないのは、授業を受けてないのと同じ」という先生の発言でした。「原核生物と真核生物の違いを理解しているか」という問いであったと記憶していますが、授業に対する姿勢を改めさせられる瞬間でした。先生の講義内容と直接関係があるわけではありませんが、今日伝えたいことに記されていたし特に大きな学びでした。

★（9. 環境学研究科）

バイオリギングの映像はどれも面白かったし、話も興味深かった。鳥の動きを観察することで、鳥の観察だけでなく、風や海流についても想定できるようになり、天気予報の精度が上がるなど、技術によって新しい発想の起点にもなると分かった。また、依田先生は動物行動学をやっておられるけれど、元々物理を習っていたとおっしゃっていて、自分も物理選択だけど、広い視野を持つことも大事だと思った。



4. 法学研究科の先生の講義 双方向でやりとりをしている